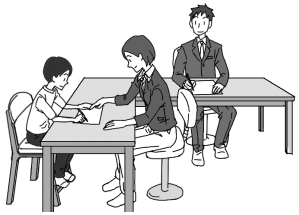
すべてはアセスメントから ～アセスメントができる機能と場所～

子どもたちの「ピークの力」を把握する！

ご家族とともに，延べ350名以上のアセスメントを積み重ねてきました。
明日からの療育に役立つ，一人ひとりに応じたプログラムを作成します。

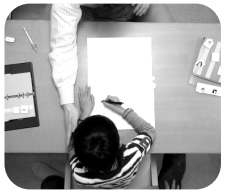


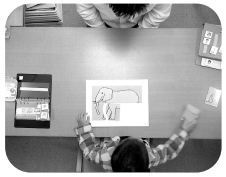
30種類以上の教材を用いたアセスメント

トータル・アプローチの視点で，30種類以上の教材を組み合わせます。1日をとおして，お子さんのピークの力を把握します。

ご家族と一緒に指導プログラムを作成

2時間以上のアセスメント場面を共有後，協議を行います。お子さんの特徴を理解して，ご家族と一緒に最善のプログラムを導き出します。





子どものピークの力を知り，明日からの療育に役立つプログラムを作成するアセスメント

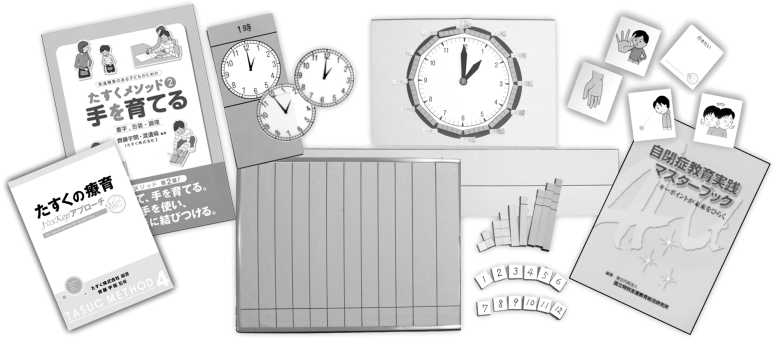
たすくの療育は，アセスメントから全てが始まります。たすくアセスメントは，お子さんの現在の力の把握をすることを主目的にした，従来のアセスメントの方法に加え，将来の豊かな生活を実現するための，具体的なスモールステップを明らかにすることに特徴があります。

そのため，たすくアセスメントは，必ずご家族と一堂に会し，セッションを終了した直後に，協議を行います。

セッション中に，ご家族がお子さんを励ましたり，子どもたちが，ご家族に近づくことで，心理的に安定を図ったりする様子を観察することも，一人ひとりに応じたプログラムを作成するためのアセスメントには，欠かせない視点です。

検査をしないで手術する医師はいません。私たちは，お子さんの特徴を明らかにし，ご家族との協議をとおして，アセスメントをしっかりして，療育を進めます。

たすくアセスメントの特徴



障がいの疑いをもった早期から，生涯学習に取り組む青年期まで活用できるよう，100種類以上のアセスメント教材（項目）を題材にしてプログラムを立てていきます。

「たすくアセスメント」は，お子さんの状態像の理解に留まらず，明日からの具体的な目標設定を行うことまで，目的の幅を広げたアセスメントです。そのため標準化はされていませんが，個体内評価（お子さん自身の発達や変化を図る）について十分な資料となるよう工夫しています。少なくとも一年に一度の受検を推奨し，受検後には，保護者や支援者ができる限り具体的な目標や方法を明らかにして，アセスメントの教材をそのまま療育のスタートに使用できるように，毎年，教材を増やしています。

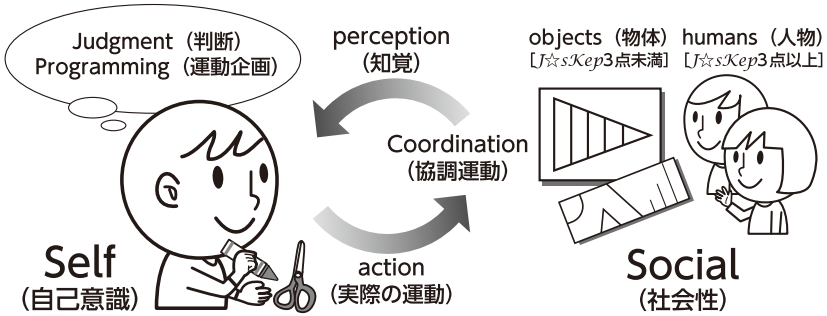
「たすくアセスメント」の開発には，すでに，多くの専門家に協力を仰いでおり，今後も発達障がいのある人の支援の充実に向けて，関係者と共にこの「たすくアセスメント」を充実させていきます。

＜たすくアセスメントの特徴（まとめ）＞

①発達に課題のあるお子さんの現状と課題，将来について共通理解する。
②*J☆sKep*の各項目及び全体的な状態像を明らかにする。
③本人の関係性から社会性の状態を中心に，人格形成の到達点を明らかにする。
④今後一年間の学習内容の目標（機能的な目標）を明らかにする。
⑤必要な環境側からの支援や，プロンプトなど学習支援のレベルを明らかにする。
⑥必要な学習形態や家庭での取組を具体化する。
⑦最善の環境を作り，ピークの力を把握する。
⑧家族へのストレングス・アプローチをとおして，今後の支援の方針を明らかにする。

無断複製・複写を禁ず　たすく株式会社　info@tasuc.com

自己意識と社会性
Perception-first cycle™ とは



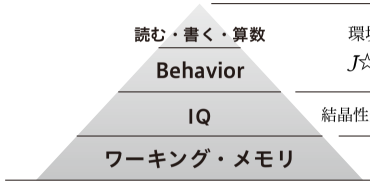
最も重視するのは，perception-first cycle™

たすくは，入力系といわれる前庭覚 (balance)・固有覚 （move）・触覚 （touch） や，見る・みわける（watch），聴く・ききとる（listen）などの知覚（perception）から，情報処理系の判断（judgment）・運動企画（programming），　表出系の実際の運動（action），協調運動（coordination）のサイクル（Perception-first cycle TM）が，社会性 (social interaction）の学びへとつながる最も有効な方法である考えています。

発達障がいのある人への療育には，「継続する」ための「道標」が必要です。たすくメソッドに基づく療育では，ワーキングメモリの不全を解決する視点移動・空間認知などの知覚（perception）から療育をスタートさせ，協調運動，社会性へのアプローチにつながるサイクル（Perception-first cycle™ ）が，「道標」だと考えています。

療育の三本柱

①学習の基礎　●**別称**：個人別の課題学習　●**形態**：1対1，2対1，3対1，グループ



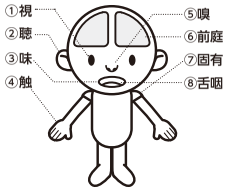
環境（三種の神器・特性の理解と活用11項目）
J☆sKepと機能的な目標+支援技術

結晶性知能，流動性知能，WISC-IV／K-ABC／DN-CAS

視空間メモ／音韻ループ／中央実行系

＋

②脳とからだ（脳と感覚）　●**別称**：身体づくり　●**形態**：1対1，グループ・モデル利用



7感＋舌咽（末梢神経）

④触
⑥前庭
⑦固有　感覚・運動アプローチの視点

①視　ビジョントレーニング

⑧舌咽
③味
②聴
⑤嗅覚　言語聴覚機能の視点

①個人別の課題学習＋②身体づくり＝ 社会へ般化 ＝③社会性

③ 社会性（自己表現，他者信頼，社会的要請）　●**別称**：ソーシャルスキルプログラム　●**形態**：グループ・モデル利用

Group

①クッキング
②清掃
③ボランティア活動
④キャンプ：リーダーとフォローワー
⑤観劇・演劇　　etc.

Model

①親と子ども
②先生と子ども
③同級生と子ども
④兄弟と子ども

Ⅰ 自己表現（アサーション）

自己信頼・相互信頼

自分から表現し → 相手がどう感じるか

Ⅱ 社会的スキル（ソーシャルスキル）

他者から要請 → 自分がどう応じるか

「仲間を大切に思う心(貢献)」をした人類が生き残った。
「NHK～なぜ人間になれたのか～」

無断複製・複写を禁ず　たすく株式会社　info@tasuc.com